

特集

2

2

ERスタンダード

気道管理

——自信がついてきた頃が一番コワイ！

ABC（気道，呼吸，循環）の維持は，救急医療の初期蘇生において最も重要な要素である。気管挿管はそのなかでもAとB（場合によってはC）の確立に欠かせない。そのため気管挿管のトレーニングは広く行われ，多くの医師が参加している。その反面（あるいはそのためなのか），「気管挿管は誰もができる」という認識で，非常にカジュアルに行われている。

しかし，挿管の失敗や合併症は時として患者の生命を脅かすものであり，100%の安全性が求められる。それゆえ，いつか出会うかもしれないdifficult airwayへの対応法に精通することが必要とされる。また，救急医であれば他科の医師が対応困難な症例の気道管理について，助けを求められるかもしれない。

そこで本特集では経験豊富な執筆陣から，一歩進んだ気道管理の戦略に関してご教示いただいた。基本から一皮むけようとしている医師に，その極意をお届けしたい。

企画編集

船越 拓

東京ベイ・浦安市川医療センター 救命救急センター

山内 素直

友愛医療センター 救急科